

各種調査結果

1. こども・若者を対象とした調査結果（概要）

◆調査期間 令和6年11月～12月

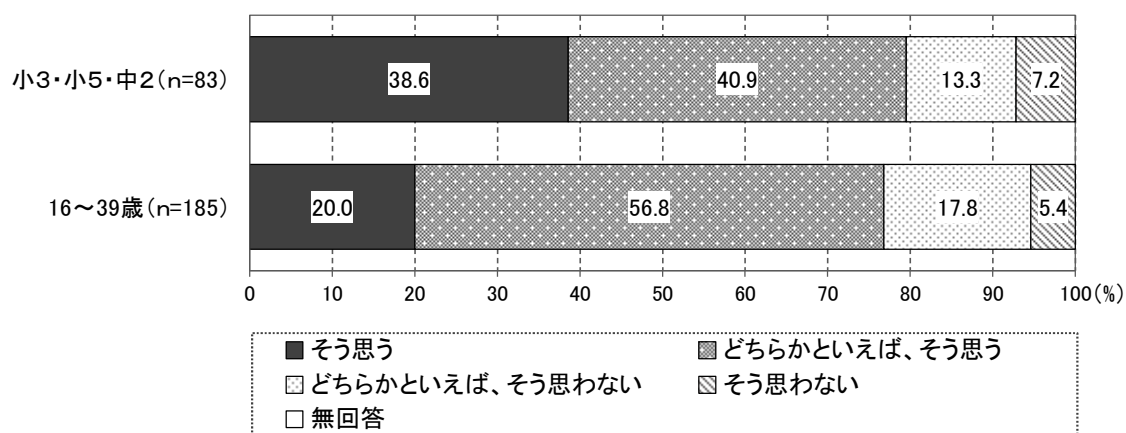
対象	配布数	回収数	回収率
小3・小5・中2	208 票	83 票	39.9%
16～39 歳	1,000 票	185 票	18.5%

1. 主な調査結果

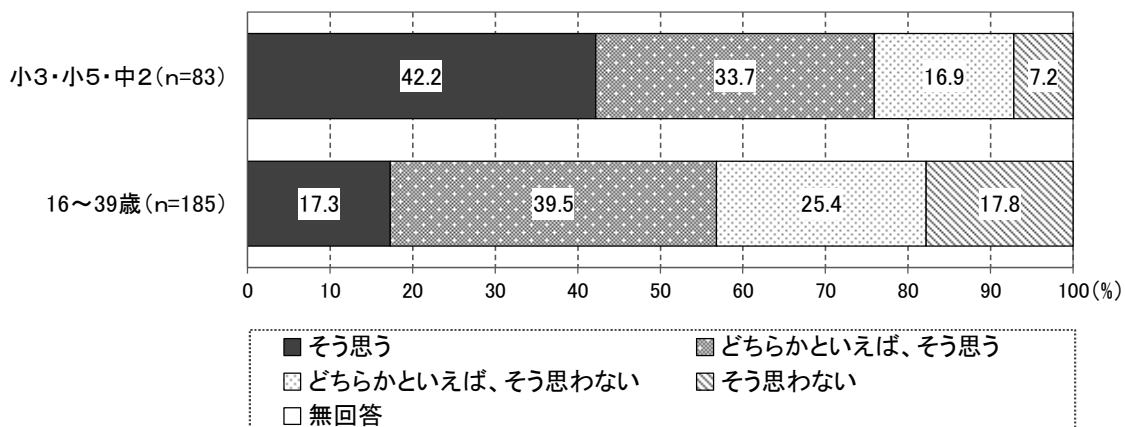
（1）自分自身に関する意識について

小3・小5・中2と比べて、16～39歳では「そう思う」（自分への肯定的な意識）の割合が低くなっています。

問1－1：うまくいくかわからないことにも、努力して取り組める



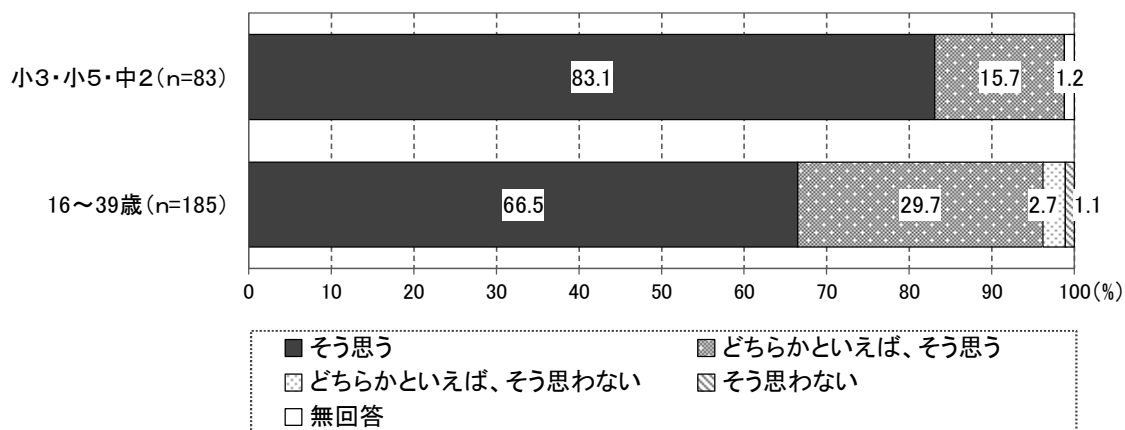
問1－2：自分自身に満足している



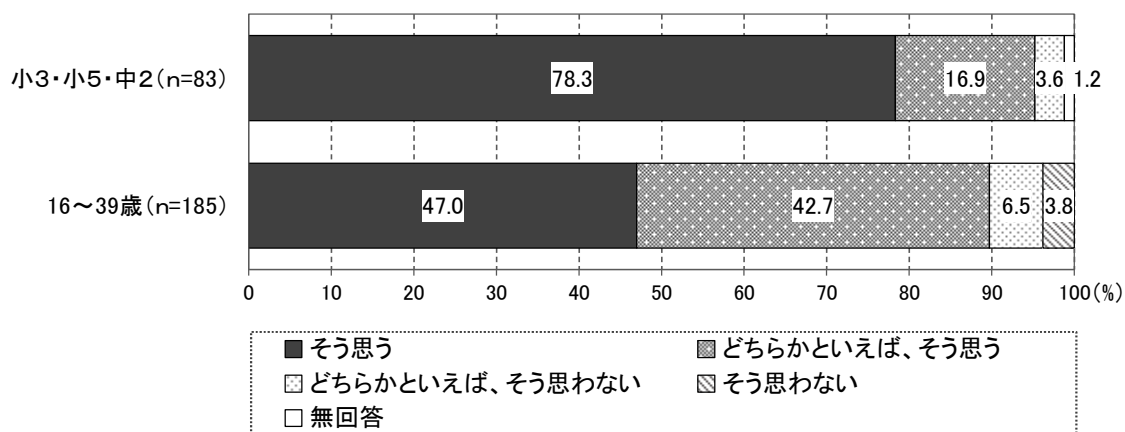
(2) 家族や親せきとのかかわりについて

小3・小5・中2と比べて、16～39歳では「そう思う」（家族や親せきとのかかわりの意識）の割合が低くなっています。

問2－1：家族や親せきはこまった時は助けてくれる



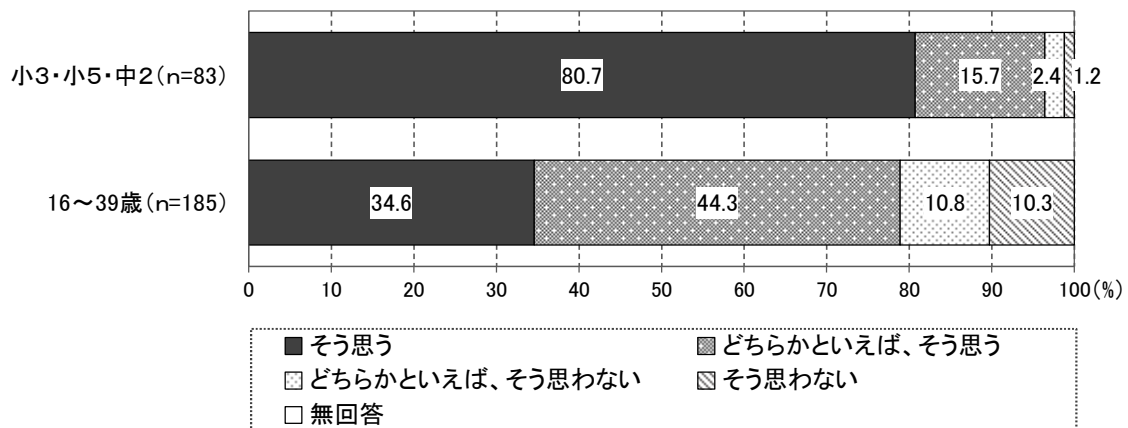
問2－2：家族や親せきといつもつながりを感じている



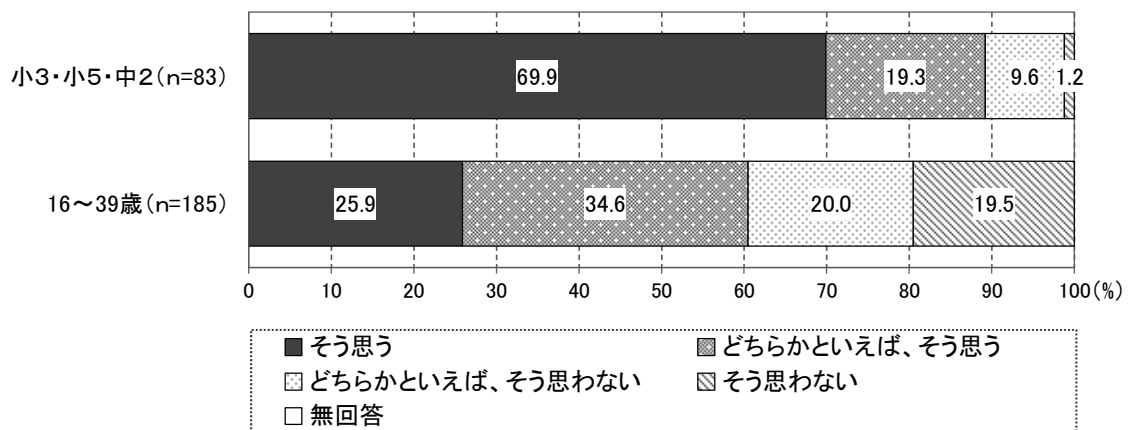
(3) 学校の友人（かつての同窓生含む）とのかかわりについて

小3・小5・中2と比べて、16～39歳では「そう思う」（学校の友人（かつての同窓生含む）とのかかわりの意識）の割合が低くなっています。

問3－1：学校の友人（かつての同窓生含む）はこまった時は助けてくれる



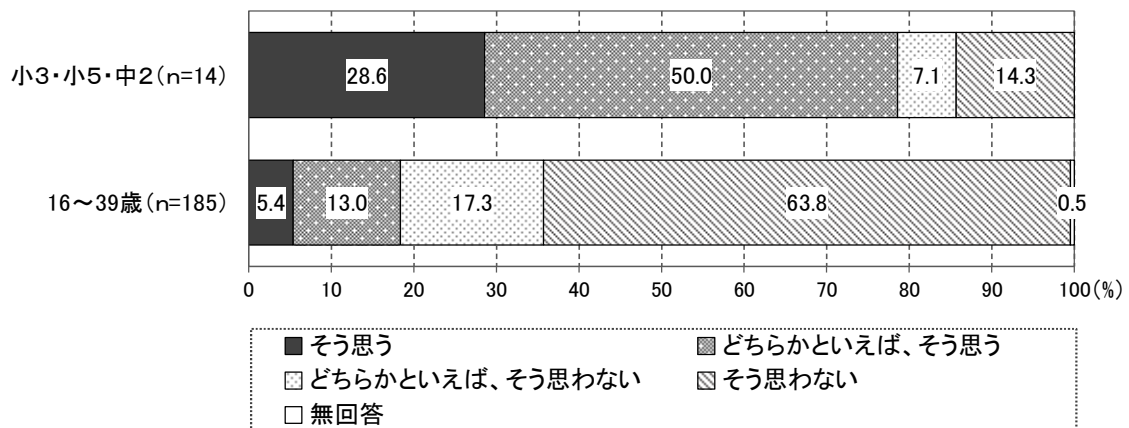
問3－2：学校の友人（かつての同窓生含む）といつもつながりを感じている



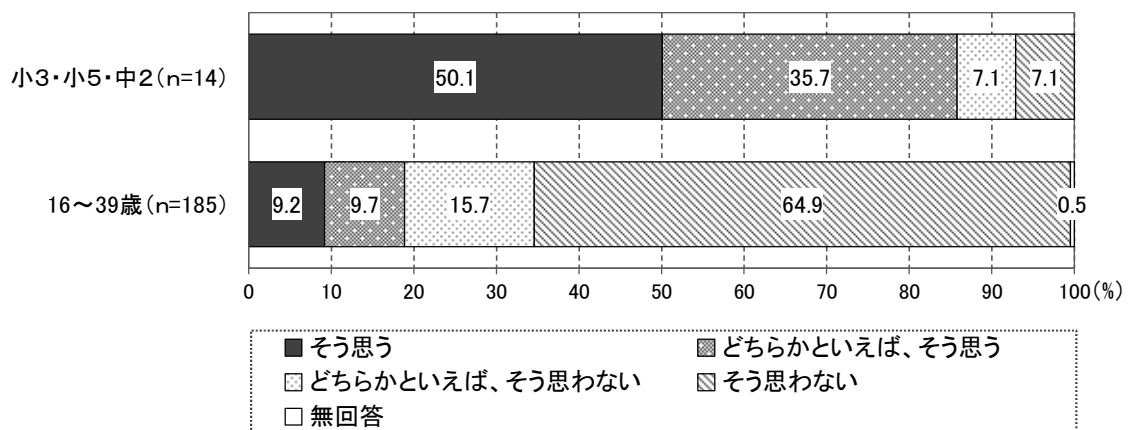
(4) インターネット上における人やグループとのかかわりについて

小3・小5・中2と比べて、16～39歳では「そう思う」（インターネット上における人やグループとのかかわりの意識）の割合が低くなっています。

問4－1：インターネット上における人やグループはこまった時は助けてくれる



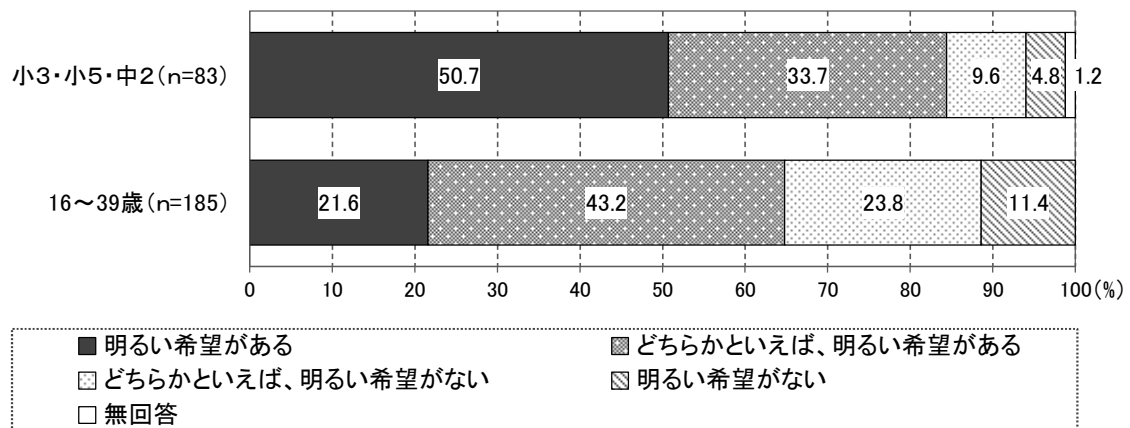
問4－2：インターネット上における人やグループといつもつながりを感じている



(5) 将来への希望について

小3・小5・中2と比べて、16～39歳では「明るい希望がある」（将来への希望の意識）の割合が低くなっています。

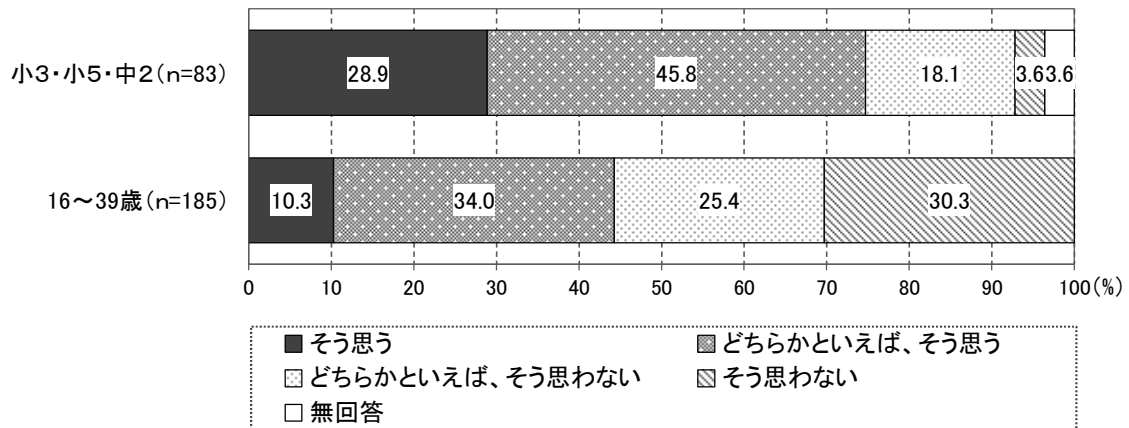
問5－1：自分の将来について明るい希望を持っているか



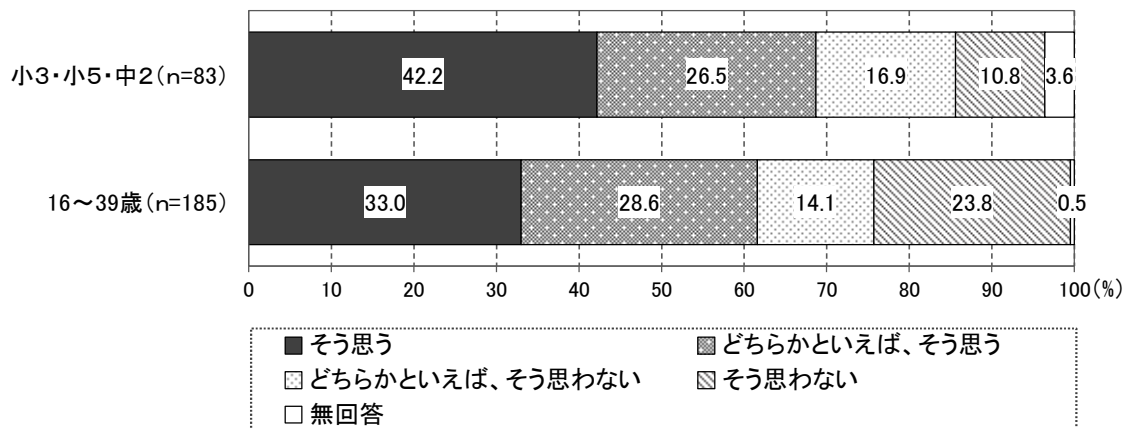
(6) 将来の自分について

小3・小5・中2と比べて、16～39歳では「そう思う」（将来の自分への肯定的な意識）の割合が低くなっています。

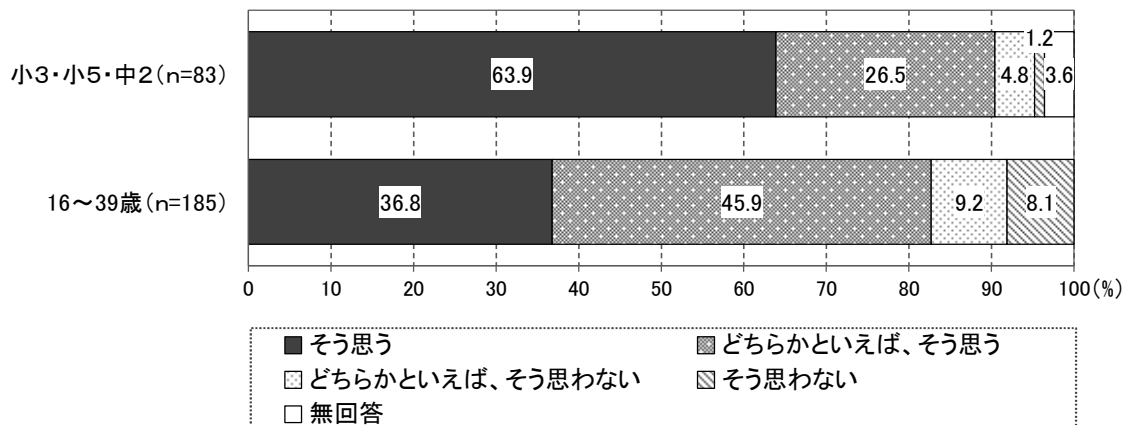
問6－1：将来の自分は多くの人の役に立っている



問6－2：将来の自分はこどもを育てている



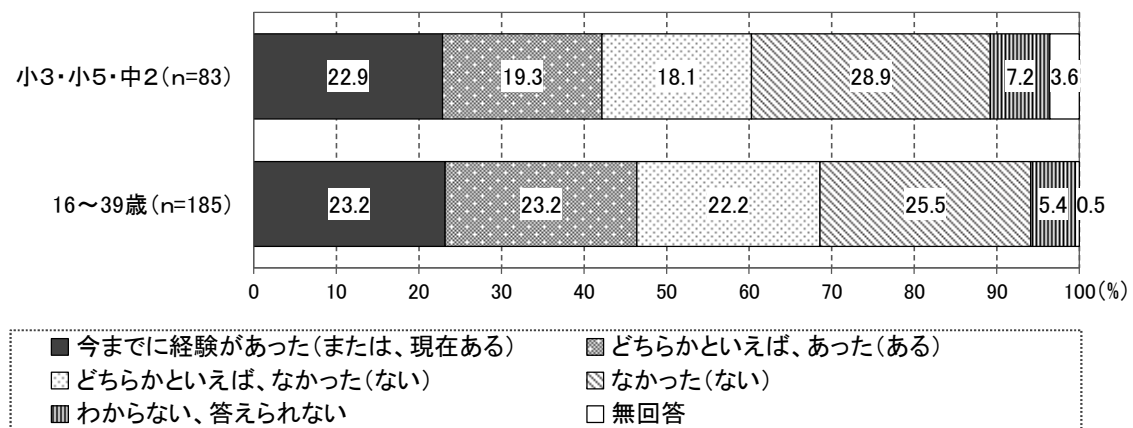
問6－3：将来の自分は幸せになっている



(7) 社会生活や日常生活を円滑に送れなかった（送れない） ことについて

「今までに経験があった（または、現在ある）」と「どちらかといえば、あった（ある）」を合わせた“あった（ある）”を見ると、小3・小5・中2と16～39歳のいずれも4割強の人が“あった（ある）”と回答しています。

問7－1：社会生活や日常生活を円滑に送れなかった（送れない） ことがあるか



(8) こども・若者からの主な意見・要望

【小3・小5・中2】

川西町のこどもが体も心も元気に育つために、してほしいと思う支援やまちづくりのアイデア等について（自由記述）

学校でしてほしいこと

- ・ 一人ひとりの悩みを解消してくれるよう、常に気にしておいてほしい。
- ・ 図書室の本を増やしてほしい。
- ・ 休み時間にサッカーができるようにしてほしい。

地域でしてほしいこと

- ・ 遊び場、ボール遊びができるところをつくってほしい。
- ・ 子ども 110 番や見守り隊のほかに、ボランティア活動を増やしてほしい。
- ・ もっとお祭りやイベントをしてほしい。

家庭でしてほしいこと

- ・ より多くしゃべりたい、遊びたい。
- ・ たくさんほめてほしい。
- ・ もっとできるお手伝いを増やしてほしい。

【16～39 歳】

川西町の子ども・若者支援の充実等について（自由記述）

町（行政）でしてほしいこと

- ・ いつでも利用できる自習室がほしい。
- ・ 学費等、少しでも金銭的負担が減る制度がほしい。
- ・ 悩みを相談しやすい環境をつくる。すでにあるなら周知する。
- ・ 母子家庭や共働きの家でも行動ができるよう、町内バスの運行を増やす。
- ・ 子どもが外で遊べる環境づくり（公園、施設などの設置）。

学校等の教育機関でしてほしいこと

- ・ 質の高い教員の確保及び待遇改善。
- ・ 引きこもり支援、不登校支援。
- ・ いじめ対策（主に加害者に対すること、被害者を保護すること）。
- ・ インターネット、SNSなどを使用するときの注意喚起。

家庭や地域でしてほしいこと

- ・ 外で遊ばせる。
- ・ 祭りやイベントを安定して毎年行える活気。
- ・ こども食堂があればいい。

自分自身が、まちづくりのためにできることやしたいこと

- ・ 地元行事の活性化。
- ・ ボランティアへの参加。
- ・ 親子で参加できる奉仕活動。
- ・ 町が開催する教室、イベントへの参加。
- ・ 子どもの登校の見守り。

2. 関係団体調査結果（概要）

本計画を策定するに当たり、こども・若者及び子育て当事者を対象に活動している団体・機関に対して調査を実施しました。

◆調査期間 令和7年2月 ◆回答数 7団体

こども・若者や保護者支援における主な課題（自由記述）

- ・発達障害のあるこどもや保護者への対応（適切な声かけ、支援者のスキルアップ、共通理解の重要性）。
- ・家庭・学校以外の居場所（遊び場）の不足と、それに伴うこどもの孤立リスク。
- ・家庭の困窮や保護者の多忙により、こどもに関わる時間や余裕が不足する家庭の存在。
- ・こども・保護者との信頼関係の構築が困難
- ・地域資源の不足（こども食堂、安心して過ごせる地域の場合等）。
- ・こども家庭センターの認知度が低い。
- ・保護者へのペアレント・トレーニングの提供。
- ・保護者間や地域との交流の機会の不足。

こども・若者やその保護者等に対して、今後さらに必要とされる支援・施策（自由記述）

- ・家庭に居場所がないこども・若者への緊急避難的な受け皿の整備（例：朝ごはん食堂、晩ごはん＋学習支援）。
- ・閉鎖的な家庭や支援にたどり着けない層へのアプローチと相談所の設置。
- ・こどもと保護者双方にとって安心できる居場所の提供（家庭外の居場所、交流イベント）。
- ・こども自身の意思決定を尊重し、過程を大切にする伴走型支援の必要性。
- ・生活困窮家庭への体験機会の保障・自立に向けた支援。
- ・外国人保護者への子育て支援、人とのコミュニケーションに課題を抱えるこどもへの継続的支援。
- ・地域全体で見守る体制の構築（関係機関の連携強化、支援会議の機能充実）。
- ・団体・学校・行政間の連携体制の明確化と強化。
- ・ヤングケアラーや引きこもり等、家庭内に支援が必要な若者への支援。

関係団体からの意見まとめ

支援を受けにくい家庭へのアプローチやこども・若者本人の意思を尊重した継続的支援、地域や関係機関の有機的連携による伴走体制の強化が課題として挙げられた。また、ヤングケアラーや外国人世帯等、多様な背景を持つ対象への個別の支援も求められている。

3. こどもワークショップの結果（概要）

本計画を策定するに当たり、こどもたちから直接意見を聞く場を設けました。

◆令和7年8月21日 川西学童テラス（本館）にて

◆小学校高学年（男児：11人 女児：11人）

グループワークその1 「こどもの居場所について」

- 町内にある「学校や図書館、公園」等、安心して利用できる場所が多く挙げられました。また、駄菓子屋や家の周辺といった身近な場所もこどもにとって大切な居場所となっていることが分かりました。
- 町内にはない「商業施設・娯楽施設」へのニーズが強く、買物や遊びを楽しめる場所がほしいという声が多く挙げられました。

グループワークその2 「どのようなおとなになりたいか」

- こどもたちは人柄の良さと自らの健康をふまえ、努力することで自らの才能や個性を発揮し、夢の実現や成功につなげることを理想としています。
- こどもたちが嫌うのは「暴力や犯罪、健康を害する行為、すぐ怒るおとな」等であり、日常で目にする社会問題を反映した具体的な意見も見られました。

こどもの意見まとめ

- 「こどもの居場所」について、町内に身近で安全・気軽に集える場があることを評価する一方、商業・娯楽・スポーツ施設等の不足を感じています。
- 「どのようなおとなになりたいか」について、優しさ・健康・努力や社会規範を備えたおとなを理想としています。また、なりたくないおとなでは、性格・人柄の問題から、犯罪や不正行為、社会的な失敗等に至るまで幅広い意見が出されました。